

研究課題名	リーシュマニア症およびシャーガス病の感染・病態リスク評価系の構築		貢献する 主な SDGs	
研究代表者 (所属機関・役職)	加藤 大智 (自治医科大学 医学部 教授)		研究期間	5 年間
相手国	エクアドル共和国	主要相手国 研究機関	国立エクアドル中央大学	
研究課題の概要				
本研究では、エクアドルにおいて、「顧みられない熱帯病」の代表ともいえるリーシュマニア症およびシャーガス病について、感染・病態リスク評価という観点から疫学研究を展開する。伝播機序の解明に基づいた感染症対策、早期治療につながる診断・検診法の開発・普及を目指し、次の研究を行う。1) 感染原虫の同定、2) ベクターおよびリザーバー調査、3) 皮膚リーシュマニア症の分子診断法の開発、4) シャーガス病の非侵襲的な検診法の開発、5) ベクター暴露評価系の開発。本研究により、継続的な感染症対策に資する知見の蓄積とともに、リスク評価法、分子診断法、非侵襲的な検診法の創出および社会実装が期待される。				